

10/14(日) 催開 夢をつなぐ!!! 復興リレー2018

十月十四日(日)の八時三十分から、榎葉町・広野町との連携事業で「夢をつなぐ!!!復興リレー2018」希望の明日へ向かって、を実施します。復興の状況を国内外に発信し、東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレールートに誘致することを目的に開催します。ランニングと自転車でリレーを行いますので、沿道など

での応援をお願いします。また、鈴木尚広(元プロ野球選手)をゲストに迎え、ゴール式終了後、いわきPIT隣の広場でランニング・ワークショップを行います。

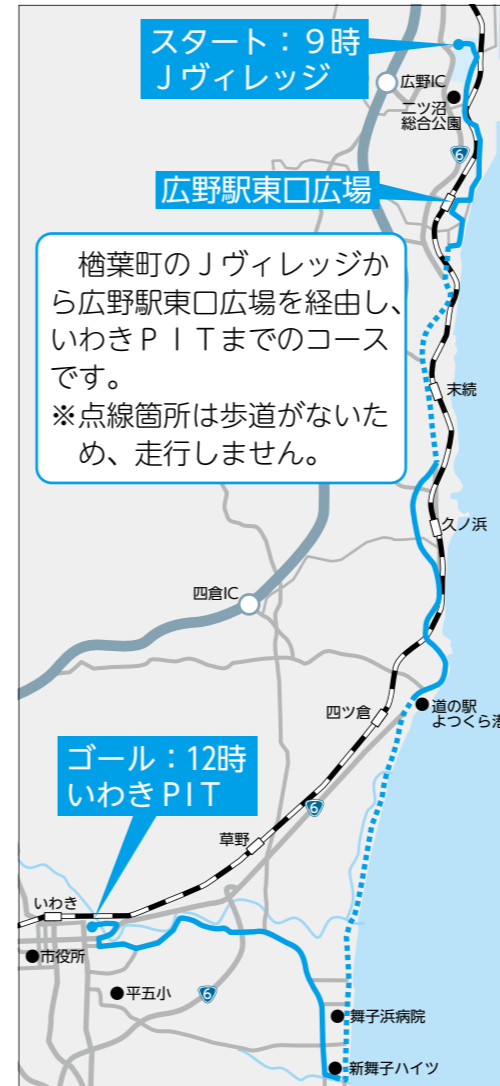
- ランニング・ワークショップの参加者を募集
- ▼募集定員 20人(応募多数の場合は抽選)
- ▼申し込み方法 9月3日(月)〜28日(金)に同課へ



鈴木尚広

○お問い合わせ
スポーツ振興課
東京オリンピック・パラリンピック担当
☎22・7032

○コース紹介(予定)



地名の中の「いわき」

「梅」や「桜」が付く地名

地名の語源や由来を解説するのは、非常に難しいものです。さまざまな解釈や言い伝えがあり、真実である確証がないからです。加えて、古くから「好ぎ字」、つまり縁起の良い地名を使うということが一般的に行われ、さらには、別な文字への転用や言い換えなど、現在の地名に至るまで歴史の中で変遷を経ていることが多いからです。

一例として、市役所本庁舎が所在する平字梅本が挙げられます。この「梅」は

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

「埋める」からの転用、つまり埋めた土地が元になっていると考えられます。また「梅田」の地名で鹿島町久保、川部町三和町中三坂でも確認することができま

す。一方、四倉町字梅ヶ丘はこれに由来しているわけではありません。新たな住宅団地名であり、瑞祥地名という縁起の良い地名として付けられたからです。このように同じ文字であっても語源や由来が異なります。

また「桜」の付く地名については、サク(狭い谷間)にラという接尾語がついた語形、またはサ(狭)とクラ(割、座)が結びついて、崩落や浸食の影響を受けた地形を指すとされています。内郷内町字桜本はこれが由来でしょう。

これに対して、平字桜町は、江戸時代に町割りの一環として付けられたもので、文字どおり樹木の桜に縁があると考えられます。

(いわき地域学會 小宅幸一)
※いわき市内の昔の写真をもちで、提供いただける方は、ふるさと発信課(☎22・7503)までご連絡ください。



市役所本庁舎がある平字梅本 [平成元(1989)年10月 いわき市撮影]

サモア独立国のラグビーワールドカップ2019への出場が決定

日本で開催されるラグビーワールドカップ2019に、本市がホストタウンとして登録されているサモア独立国が出場することになりました。

サモア独立国ラグビー協会との覚書などにに基づき、本市での事前キャンプや市民の皆さんとの交流事業を行います。



出場決定を喜ぶ同国のラグビー代表チーム

募集 市自転車道路網・海岸線ルート(市道勿来・久之浜線)の愛称

土木課道路計画係 ☎22-7482 FAX24-2119
doboku@city.iwaki.lg.jp

勿来の関公園から久之浜防災緑地までの総延長約53kmにおいて、自転車が利用しやすいよう環境整備を進めている同ルートの愛称を募集します。

- ▶対象 次の要件を全て満たすもの ①海岸線の魅力をイメージでき、分かりやすく、覚えやすく、親しみやすい ②他の名称と類似せず、自作で未発表
- ▶応募方法 任意の様式に愛称と説明、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、〒970-8686 土木課へ (FAX可)
- ▶応募期限 9月20日(木)消印有効

こんにちは市長室から 35



明るい長寿社会を目指して!

いわき市長 清水敏男

市では、高齢者の皆さんが、住み慣れた地域で、いつまでも明るく元気に暮らすことができるよう、さまざまな取り組みを行っていますので、ご紹介します。

まず、認知症対策が課題となる中、多くの市民の皆さんに認知症に対する理解を深めていただくため、平成19年から認知症サポーターの養成に取り組んでいるほか、平成26年には先進的な取り組みとして、権利擁護・成

年後見センターを開設するとともに、平成27年には、専門職による相談や、同じ立場の方が交流できる場として、認知症カフェ「オレンジカフェ以和貴」をスタートしました。

また、平成18年から年金や介護、医療など老後の暮らしについての何でも相談所として、地域包括支援センターを市内7カ所に設置していますが、本年度から中央台と泉にも新たにサブセンターを開設し、よりきめ細かな相談体制を構築しています。

他にも、介護・予防・生活支援・医療などを一体的に提供する地域包括ケアの取り組みを紹介する情報誌「紙のいごく (igoku)」を発行、今月7日・8日には企画イベント「igoku Fes2018」を平中央公園とアリオスで開催しますので、ぜひご参加ください。